

孫の手通信



第15号

平成23年2月25日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 050 (5549) 6005

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

小学校子ども議会

1月27日、一宮町役場議会議場で小学校子ども議会が開かれました。

町の将来を担う子どもたちが、自分の町の姿を良く見つけ、快適に住みやすいまちづくりのために、自分たちの夢や希望を提言し、町への関心を高めてくれることを願い、町制120周年記念の一環として開催したものです。

東浪見小学校と一宮小学校の六年生16人が議席につき、26人の児童が傍聴席に座りました。一般質問の様子は、庁舎内に放送され、新聞記者も取材に駆けつけました。議長をつとめた相馬佑哉君（一宮小学校6年生）は、大きな声で議事を進行し、とても立派でした。

児童の質問は、「通学路に防犯灯をつけてほしい」「午後5時の時報を、暗くなるのが早い冬は午後4時にしたら」という身近な要望や提案から「障害を持つている人に町はどんな支援をしているのか」「商店街を活性化するためにどうしたらいいのか」など、福祉から町おこしまで多岐にわたるもので、いずれも町の将来を心配し、真剣に考える内容で感動しました。

答弁は、私と各課の課長が行いました。答弁の中で、子どもたちに約束したことは、すぐに実行してまいります。（子ども議会での質問と答弁については、町のホームページに掲載していますので、ご覧ください。）

教育長に町田義昭氏を選出

6月に任期満了で教育長が退任してから長い間空席となり、関係者にご心配をおかけしていましたが、2月1日、教育委員会が開かれ、新しい教育長に町田義昭氏（4区）を選出しました。任期は平成27年1月31日までの4年間です。

町田教育長は、千葉大学を卒業し、一宮商業高校教諭、長生高校教諭、長狭高校長、県教育庁学校教育部指導課長等を歴任し、船橋高校長を最後に平成15年に退職されました。退職後も、千葉県の教育を元気にする有識者会議副議長、県立学校改革推進プラン策定懇談会委員などを勤められています。町田教育長には、教育現場と教育行政の豊富な経験を生かして、一宮の明日を担う人材育成に手腕を振るっていただくことを期待しております。



辞令を受取る町田義昭氏

一宮荘取り壊し工事始まる

国民宿舎一宮荘の建物の取り壊し工事が始まりました。一宮荘は施設の老朽化と利用客の減少により運営が困難となったため、昨年3月末に廃止となりましたが、建物が犯罪に利用されたり、火災の恐れがあるため取り壊すことにしたものです。

跡地の利用については、道の駅の整備など色々な意見がありますが、当面は駐車場やトイレなどを整備して、だれもが安らげる海浜公園としての利用を考えています。

緑の分権改革・チャレンジエコタウン一宮

2月5日、東浪見海岸地先で、「チャレンジエコタウン一宮」が盛大に開催されました。

一宮町では、国から委託を受けて緑の分権改革推進事業に取り組んでいます。緑の分権改革とは、少子高齢化や人口減少に対応するために、地方から中央に人とモノとお金が集中するこれまでの社会の仕組みを変えて、地域にある資源（里山や海、作物の育つ農地、輝く太陽、歴史的な文化遺産など）を地域の中で循環して、地域の自給力を高め、地域社会の自立を図る国の新しい政策です。

国から委託を受けた自治体は、地域にどれだけ利用できる自然エネルギーがあるかという調査と、地域資源を活用した社会実験を行い、その結果を国に報告することになっています。

一宮町では、三つの社会実験を行っています。一つは、廃食用油を利用したトマトの温室栽培で、二つ目は、太陽光を利用した地域交通（駅前ソーラー発電システムの駐輪場と電動自転車配置）、三つ目は、里山資源である竹を利用した移住促進センター（竹ハウス）の設置です。

「チャレンジエコタウン一宮」は、この事業を広く町内、町外の人に知っていただくために、開催したものです。

当日は、天気にも恵まれ、300人という予想以上の参加者が来場し、地元選出の金子衆議院議員をはじめ来賓多数のご臨席をいただきました。特設ステージでは、東浪見甚句、上総神楽、フラダンスなどが次々に演じられ、婦人会が作ったトン汁や太巻きも人気を集めていました。

町としても初めての事業であり、国の委託事業であるため色々制約があり難しい事業ですが、町の活性化のためにより良い成果を残したいと思っておりますので皆様のご協力をお願いします。

（駅前の電動自転車は、どなたでも無料で利用できますので、ぜひ一度試乗してください。申し込みは駅前の農産物直売所です。）



鋭い質問が飛び出した子ども議会＝27日、一宮町役場議会議場

防犯対策や障害者支援：

子ども議会で鋭い質問

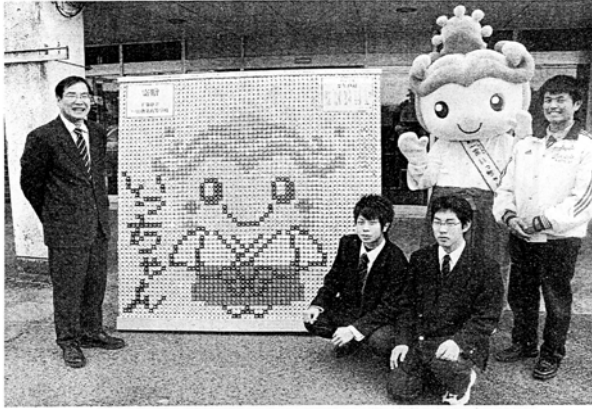
自分たちの町の将来を考へ「質問も飛び出した。えてもらうと、一宮町役場 子ども議会は町制100周年記念事業の一環として、27日、「小学子ども議会」が実施された。町教委が実施した。一宮町は実際の町議会と同様に、町長や町執行部が出席。児童は小中学生を対象とし、子どもからは大人顔負けの鋭い質問も飛び出した。

約20年ぶりの開催となる。この日は町立一宮小学校と町立東浪見小学校の6年生16人が議員として参加。児童からは「障害者を持つていてる人に町は優しいかな」といった質問や「通学路に防犯灯を付けてほしい」などといった要望。午後5時の時報を、暗くなるのが早い冬は午後4時には「は」などといった提案が飛び出し、本番さながらの質疑が行われた。町執行部も税金の大切さや、3月から始まるJR上総「一宮駅のエレベーター設置工事などについて詳しく説明した。海岸整備について「突っ込み」も満載。など、鋭く質問した一宮小学校6年大室葉留さん(10)は、自分が議員をやると思ったら政治のことをしっかり考えなければと思った。町政に反映されたいという思いと笑顔で話した。

キャップで作った「いっちゃん」寄贈
県立一宮商業高の生徒がペットボトルのキャップを並べて作った一宮町のマスコットキャラクター「いっちゃん」の写真を、同校では11月5、6日に「エコ活動」をテーマにした文化祭を開催。生徒らが集めたキャップ数万個を使い、キャップをモザイクのように並べて「いっちゃん」の

ほか、ドラえもんや地デジカなどのキャラクターを製作、展示した。見学に来た玉川孫一郎町長から「いっちゃん」を寄贈してほしい」と頼まれ、キャップの向きや種類も合わせるなどし、完成度を高めたものを寄贈した。

「いっちゃん」に使ったキャップは3245個。企画した向後孝憲教諭(36)は「キャップの仕上げを生徒がやってくれたおかげでスムーズに出来た」と話した。



13歳プロサーfer 2人誕生

一宮 最年少、稲葉君と大原君

サーフィンの町」として知られる一宮町に、日本プロサーフィン連盟(JPSA)公認の史上最年少プロサーferが2人誕生した。同日立一宮中学校2年の大原洋人君(13)と、同級生だった稲葉玲王君(13)。2人は小学生時代から一緒に練習し、競い合ってきた親友で、良きライバルだ。

2人は9月30日から10月1日にかけて、茨城県で行った。保国園の競りがわれたJPSAのプロクレストライドボードを乗りこすトライアルに挑戦。大人も参加し、100人が挑戦して4人しか合格できないの勧めで、乗れるようになるまで怖かった話も、ワンドに勝ち抜いてプロと対戦し、13歳の2人が見事プロ資格を得た。

稲葉君は1997年、船橋市で生まれ、間もなく同町に移住した。プロサーferで、小学1年のころからサーフィン(同町)経営の父



最年少プロサーferとなった稲葉玲王君(左)と大原洋人君＝12日午前、一宮町のサーフショップDEEP

ろな技が決まったりするのが楽しい」と魅力を語る。小学1年のころ、町立一宮小学校の同級生だった2人、朝や放課後の練習を一緒に行うことは自然な流れで、互いに認め合ってきた。

だった。同じ大会に出ることも多く、稲葉君は大原君を「太いラインを持ち、パワフルなサーフィンをする」と評価。大原君は稲葉君を「トリッキーでいろいろな技を決める」と評価し、互いに認め合ってきた。

年間活躍選手を初表彰

石井、清田さんらたたえ



表彰状を受け取った受賞者＝一宮町のホテル一宮サイドオオツカ

2010年に活躍したスポーツ選手を表彰する「一宮町アスリート・オブ・ザ・イヤ」授賞式が、町剣道クラブ(小関雅嗣会長の)が初めて開催した。当日は地元の国会議員や県

表彰状を受け取った受賞者＝一宮町のホテル一宮サイドオオツカ
議長、町長、町議、体育協会関係者など約130人が参加。アスリート・オブ・ザ・イヤは全日本剣道選手権大会でベスト8に入賞した町在住の石井洋幸さん(県警第一機動隊剣道部所属)と、全関東空手道競技大会の学年別小学生男女有級で準優勝となった町立小学校6年の清田知佳さんが受賞した。メンバーは、オプ・ザ・イヤは「剣道八段となった柳川美幸さんが、レジェンド・オブ・協には大場会長がそれぞれ選ばれた。



カタクチワイシの井を受け取る住民＝一宮町

エコなまちへ 地域資源活用

一宮で展示や講演会

地域資源や自然エネルギーを活用したエコなまちづくりを目指すイベント「チャレンジエコタウン一宮」が一宮町東浪見で行われた。エコに関する展示や、ミニ講演会などが催された。イベントは、一宮町が総務省から委託された「緑の

分権改革推進事業」の一環として実施。太陽熱を利用したシャワーなどエコに関する展示や、6人のエコ専門家が語るミニ講演会(たき火トーク)が行われたほか、竹で造られた施設でカタクチワイシの井や地元農作物などを販売。町内の酒造メーカー「稲花酒造」などをバスで回る見学ツアーも行われた。上総神楽や東浪見甚句、フラダンスなども披露され、会場を盛り上げた。